








歯並びが気になる・・・

これでわかる！矯正治療

**歯並びを治すには色々な方法があります。
歯を削らず、デコボコがなくなって
自分の歯ですっと噛めるのが矯正治療！**

初めての矯正、わからないことだらけ。
少しの不安もなくなるように日々のカウンセリングの中で
質問が多かったことや基本的なことについてまとめてみました。

【目次】

-  なんで矯正治療が必要なの？
-  子供の矯正治療はいつから始めればいいのか？
-  大人でも矯正治療はできるの？
-  矯正治療のながれ
-  矯正装置は大変？
-  矯正治療の費用、保険診療はできないの？
-  どの歯科医院で治療をすればいいのか？



【監修】日本矯正歯科学会 認定医 矯正担当医 小林英範



①



なぜ矯正治療が必要か？

～歯並びを治したい！～

ほとんどの方は見た目が気になるから歯並びを治したいと思ったのがきっかけではないでしょうか？

審美的な見た目もちろん大切ですが、一番大切なことは正しい位置でしっかり噛めるということです

～悪い歯並びを放っておくと下記のような症状が起こることがあります～

食事の効率が悪い

- ・上手にかめていないと大きいままの食べ物が胃腸に入るので負担がかかる

むし歯や歯肉炎、歯周病になりやすい

- ・デコボコの歯並びは食べ物がはさまりやすく、歯磨きがしにくいいため磨き残しが残る
- ・よくかめないで口の中をきれいにする唾液も出にくい
- ・唾液が出ないと口の中が乾燥しやすく、むし歯菌や歯周病菌の繁殖が増える悪条件が揃う
- ・口が閉じづらいと歯ブラシで完全に汚れを取り除いても口の中が乾燥するためいつまでも歯ぐきの腫れが治らない

発音に影響がでる場合がある

- ・特に受け口や開咬の人は サ行 タ行 ラ行がクリアーに発音できない
- ・息が漏れるような発音になる

口元や顔の形やあごの成長にも影響する

- ・あごのあたりに痛みを感じたりすると口を大きく開けられなかったり顎関節症にもなりやすい
- ・出っ歯や受け口は口元、顔の形など見た目にも影響が及びます
- ・あごの発育方向がずれ歪んだ顔の形になることがある

悪い歯並びが心理的にも悪い影響を与える場合がある

- ・口元にコンプレックスがあるため、口を大きく開けて笑えない、人前で話をしたがらない、内気になる

かみ合わせが悪いとお口の中に限らず、倦怠感、偏頭痛、肩こり、腰痛など体の様々な部分に影響が出ることがあります





子供の治療開始時期

～いつから治療を始めたらいいの？～

お子様の矯正治療は、**初期治療**（骨格矯正）と最終的なかみ合わせを作る**本格治療**（歯列矯正）からなる2段階治療が一般的です。

初期治療は、**5～12歳ごろ**までの永久歯と乳歯の混ざり合った時期が中心の治療で、**本格治療**（大人の矯正）は、乳歯が抜けた終わった**10歳ごろ～成人**までの治療です。

検査の結果、すぐに治療を始めることができる人もいれば、年齢や症状などによっては少し待ったほうがよい人もいます。

早期に始めればごく簡単な治療で済む人もいれば、大人になってからの矯正だけでも問題のない人もいます。

まずは、乳歯が生えそろう頃に相談することをお勧めします。

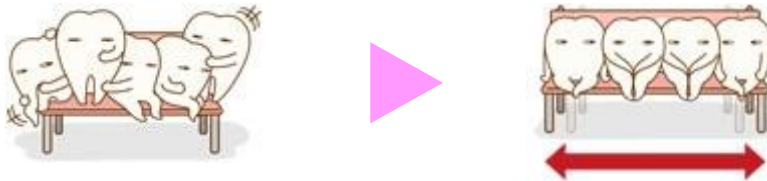
※ 3歳児健診などでかみ合わせを指摘されたお子様の中で、受け口（反対咬合）のお子様に関り**早期初期治療**として3歳頃から治療を開始する場合があります。

初期治療（骨格矯正）について

初期治療（骨格矯正）とは、歯をきれいに並べるといよりはむしろ、成長が活発な時期に上下個々のあごの大きさを調整し、上下間のあごのズレを整え、正常なあごの発育ラインに乗せることです。お子様だからこそ可能な矯正治療です。

例えば、あごを電車などの横長の椅子、歯を座る人だと考えてください。

4人掛けの椅子に4人は座れますが5人は当然座れません。大きくて十分なスペースのある椅子を用意する必要があります。成長期には発育を利用して4人掛けの狭い椅子を5人座れるように伸ばすことができます。（あごを歯に合わせ大きくする）



成長期を過ぎた場合は発育を利用して椅子を伸ばすことが難しいので、椅子の大きさに合わせて座る人数を決める必要があります。4人掛けの椅子に5人座る場合には1人に遠慮してもらわねばなりません。（歯を抜く必要性が出てきます）

成長に合わせて、あごにすき間を作っていくことは、とても自然な作業で、本人の負担は少なく効果も高くなります。子供の段階から矯正治療をスタートすることによって、永久歯が萌出できるスペースを確保しやすく、なるべく歯を抜かないで治療できるようになります。

また、出っ歯や受け口といったあごのバランスが悪い場合も、やはり早期に矯正治療を始めることが、大きな悪化を防ぐことにつながります。あごのズレを放っておくと将来的に矯正治療だけでは治すことが難しくなり手術を併用した矯正治療が必要になってくる場合もあります。

美しい歯並び、正しいかみ合わせを作るためには早い時期から成長を見守ることが大切です。





大人の矯正治療開始時期 ～大人でも矯正治療が可能でしょうか？～

年齢的な問題で矯正治療に踏み込めない患者さんもいらっしゃいますが、たとえ、50歳、60歳であってもお口の中の骨と歯がしっかりしていれば**矯正治療は可能です**。（歯の神経の有無に関与されません。）
しかし、20歳でも骨と歯の状態が著しく悪い場合には治療をすることが難しくなってきます。

矯正治療は年齢に関わらずできます

早い段階で矯正治療を始めたほうが効果を得るのは早いです。

また、装置の種類として目立たないクリアータイプ、歯の色調に合わせた白色のものや、表からは見えない歯の裏側につけるタイプなど、患者さんのライフスタイルにあわせて多種多様です。
当院では矯正治療期間中、少しでも快適に過ごしていただくために子供、大人を問わず目立つ装置（金属の矯正装置）は使用しておりません。



通常の矯正装置



白い矯正装置



マウスピース状の矯正装置



裏側装着の矯正装置





矯正治療の一般的な流れ

～どうやって治療するの？～

初期治療から本格治療までの一般的な治療のながれを例に・・・

1	初診相談	気になる部分についてご相談をさせていただきます。
2	精密検査	お口の型、レントゲン写真を撮ります。1ヶ月後に検査結果がでます。
3	検査結果	診断、治療方法、期間、費用など具体的な説明をします。
4	初期治療	月1回の来院間隔で1年半の期間であごを大きくしたり骨格的なずれを治したりします。初期治療終了後、経過観察に入ります。
5	経過観察	あごの発育、歯の生え変わり、12歳臼歯が生え揃うまでだいたい中学生くらいまで半年に1度の間隔で来院します。
6	精密検査・再診断	成長発育が落ち着いたところで歯並びを再評価します。
7	矯正治療終了 or 本格矯正に移行	半数近くのお子さんがここで終了。必要な場合に本格矯正へ移行します。
8	本格矯正 (大人の矯正)	第二期治療は月1回の来院間隔で1年半～2年位の期間で最終的なかみ合わせを作ります。
9	保定	矯正装置を外し元に戻らないようにリテーナーという取り外しのできる装置を2～3カ月に1回の来院間隔で1年半～2年位使います。





矯正装置は大変？

～矯正装置って痛くないの？～

最初は慣れるのに大変だった。という声をよく耳にします。
元々自分の体にはないものを歯に装着するわけですから違和感は当然でできます。

最初は口内炎ができたり歯磨きに時間がかかったり、
また多少なりとも痛みも出てくるとは思いますが
装置を装着している間ずっと痛いわけではありません。

徐々に慣れていき1週間もすれば自分の体の一部のように違和感はなくなります。
不慣れのために途中でやめる人はいないので日常生活には支障はありません。



どうして治療期間が長い？

～もっと早く治療したい～

矯正治療は歯があごの骨の中を長時間かけて
少しずつゆっくり動いていくのでスピードを速めて治療することはできないのです。

装置（ブラケット）に力を加えて歯が動くのにだいたい1ヵ月くらいかかります。
ですから、治療は1ヶ月に1度くらいのペースが丁度よいのです。

逆に、治療のスピードを速めたりすると
歯やあごの骨に必要以上の力がかかり、よく動かないばかりか、
歯・骨・歯肉にダメージを与えます。
また、治療後の後戻りの原因の一つにもなります。

矯正治療にはどうしても年単位の治療期間がかかってしまいます。
治療中は大変でもその後の長い人生を美しい歯並び、口元で過ごせるのです。
機能的で審美的にきれいな歯並びは一生の財産になります。



矯正治療にかかる費用

～保険治療はできないの？～

矯正治療にかかる費用は基本的には保険が適用されません。

厚生労働省が指定する疾患で、
口唇口蓋裂などの先天的な咬合機能異常、
外科的な治療が必要な顎変形症などが保険治療の対象となります。
ですので、治療費としては少し高い金額になっているのが現状です。

それぞれの医院により費用の差はありますが
当院の基本矯正料金は子供の治療が30万円(税別)
大人の治療が70万円(税別)となります。

※その他、検査診断代30000円(税別) 来院時、処置料が月1回5000円(税別)掛かります。

子供の治療から始めて大人の治療が必要となった場合でも差額の金額です。
いつから始めても基本矯正料金は変わらないので安心して治療を受けられます。



どこの歯科で矯正治療をすればいいの？

～矯正歯科の選び方～

治療を受診する医院の判断基準として

担当の医師が矯正専門かつ日本矯正歯科学会認定医の資格があるかどうか、
医院との相性、雰囲気、どうしても期間が掛かる治療なので
通いやすい場所かどうかなどが挙げられます。

当医院でも日本矯正歯科学会の認定医の資格を持った
症例経験数が豊富な矯正専門の医師が治療にあたっていますので
安心して治療が受けられます。